

脱ロス・脱廃棄と素材活用でサステナビリティを推進
独自技術とデザインで海外へ

七福タオル株式会社

しちふくたおるかぶしがいしゃ

会社情報

所在地 愛媛県今治市富田新港 1-2-2

電話番号 0898-36-6020

HP <https://www.shichifuku-towel.co.jp/>

設立 1959年

代表者 代表取締役社長 河北 泰三

従業員数 77人



会社概要

高品質の今治タオルブランドとライフスタイルブランド「イッソ・エッコ」との提携によるおしゃれで創造的なデザイン、蓄積した62年の技術と素材を生かした独創的なテクニックで、「七福ブランド」はおしゃれで感性溢れるタオルとして顧客の好評を得ている。近年は、海外企業からも品質とデザインの良さを評価され、OEMを積極的に展開している。また、自然と資源を大切に作るサステナブル事業にも注力している。



選定分野



サステナビリティ
(環境配慮)

残糸の活用や捨て耳の資源化等でサーキュラーエコノミーを実現

「資源を大事にする」を全社員の合言葉に、産業廃棄物のゼロ化を目指し、使える資源を徹底的に使う取組に挑戦、実現している。具体的には、製造工程で生じる残糸や捨て耳等の端切れは通常は廃棄処分されるが、残糸を再利用して商品化すると共に、端切れ生地は、地域の紙産業と連携してこれを紙製品の原料として活用し、「捨て耳」は手芸愛好家に販売することで資源のリサイクル率を高めている。また、余剰となった商品やB級品等を地域の団体や個人に廉価で販売・寄付するなど資源を大事にすることを徹底している。また、「豊かな自然を大切に」をモットーに商品開発や素材研究に取り組んでいる。具体的には、森林伐採を抑制出来る育成の早い竹原料を100%使用した再生繊維や、大地の恵みを活かしたエコ素材（でんぶん糊やオリーブ石鹼など）を積極的に使用し、出来るだけ水を汚染しないよう留意している。オリーブ石鹼による糸の精錬は工場排水による環境負荷を軽減すると言われていた。また、工場が発生する綿埃（「風綿」）は、通常は焼却処理されているが、これを集塵装置で一ヶ所に集め、再生紙製造に役立てている。これらにより、「脱ロス、脱廃棄」のサーキュラーエコノミーを実現し、環境に配慮した事業に取り組むと共に、近隣地域との異業種連携型（紙産業との）サプライチェーン確保にも寄与している。



残糸の再利用でつくったタオル「リバイブ」は個体ごとに異なる色づかいになっている



技術力やデザイン力
による付加価値の創出

独自技術とデザイン力で自社ブランドを開発、旧織機活用で技能伝承

蓄積した整経製織技術と独自の素材研究によって、今治タオルブランドの名に恥じない高品質の商品として市場で高い評価を得ている。特に一流のライフスタイルブランド「イッソ・エッコ」との提携による感性溢れるデザインは、高い技術と融合して独自の「七福ブランド」として多くのファンを得ている。具体的には、今治タオルでは生産効率とコスト面から「無地物（白）」が多いが、同社は今治タオルの特徴である「先染め先晒し」の良さをフルに発揮させるため、あえて「多色」にこだわった設備と人員を配置している。したがって、他社が敬遠しがちな多色ジャガードを積極的に用いて、熟練技能者が手間暇をかけて織り上げた多色織物を得意としている。これにより創造的なデザイン表現を可能にし、ライフスタイルの多様化にマッチした新たな価値を創出している。また旧工場に残る旧式織機の特性を生かし、多様な糸（極細、極太、低強度等）を使用したり、旧式ならではの回転数を抑えた織物（緯糸にモール糸を使用した商品等）を製作して、国内だけでなく海外で希少価値のある商品として予想以上の高い評価を得ている。さらに独自の素材開発にも取り組み、環境配慮や資源リサイクルなどの社会的課題に対応した商品開発にも注力している。なお旧式織機は、熟練技能者が若い技術者を育成するための技能学習の教材として、製織技能の習得と技能の伝承に役立っている。



海外市場でも評価される「多色」デザインのタオルを自社ブランド、OEMの両方で製作